

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
発行日 毎月 1 日
平成 29 年 4 月号



園芸産出額全国 1 位の奪還に向けた 「力強い産地づくり」の推進について

千葉県農林水産部生産振興課
課長 小柳 享

本県の園芸は、県農業産出額の約半分を占める重要な部門であり、平成 27 年の産出額は、前年比 134 億円増加の 2,101 億円で、北海道、茨城県に次ぐ全国第 3 位となっています。県では、千葉県農林水産業振興計画で掲げた「園芸産出額全国第 1 位」の奪還に向け、各種施策を展開し、生産者の所得向上につながるよう取り組んでまいります。

1 野菜の振興対策

近年、野菜の加工業務需要は野菜消費の 6 割程を占めています。家庭消費用野菜は、多店舗を保有する大規模量販店での購入がほとんどを占めており、店側からは、均質かつ一定量のロットが求められています。

そこで、県では平成 26 年度から（公社）千葉県園芸協会を核に各産地の出荷規格の統一や荷姿の共通化を図り、産地連携により「オール千葉」でロットを確保するなど、量販店や加工業務等大口需要に対応できる産地づくりに取り組んでいるところです。

現在、トマト、ねぎ、さつまいも、にんじん等 7 品目について、各産地 J A 等で構成する品目別協議会を設置し、取組を進めており、トマトなどでは、産地の出荷規格を統一したことで、販売単価が向上するなど、効果が出始めております。集出荷場の機械の規格の違いにより、出荷箱の統一が難しいなどの課題もありますが、今後とも、本県産野菜の評価向上に向け、可能などころから産地連携を積極的に進めていくこととしています。

2 果樹の振興対策

本県のナシは日本一の生産額を誇り、主力品種の「幸水」は昭和 50 年代に急速に普及しましたが、現在、樹齢 30 年を超え、生産力が落ちる「老木」の割合が増加し、計画的に改植を進めていくことが重要です。

そのためには、改植用の大苗（2 年間で 4 m 程度に育成した苗木）を生産者に供給する体制整備が不可欠であり、その供給体制について、早急に検討を進めていくこととしています。

また、南房総特産のびわやかんきつは、急斜面での栽培が多く、生産量が減少しているため、簡易ハウスでの栽培や新たな品目の拡大など、平地で観光需要にも対応できる生産技術の確立に向け、本年度から現地での検討を始めたところです。

3 花植木の振興対策

歴史ある安房地域の切花をはじめ、各種鉢花や海外輸出される植木など多様な品目が栽培されており、品目の多さは本県の強みだと考えられます。2020 年東京オリンピック・パラリンピックでは、一部競技が県内で開催されることから、会場周辺を本県花植木で装飾し、国内外からの来訪者をおもてなしできるように、取り組んでいくこととしています。まず、県内の生產品目・数量を把握し、大会関係者へ会場装飾やビクトリーブーケ用花材として PR するとともに、真夏の開催に合わせ、耐暑性品目の検討と本県産花きで装飾する気運の醸成を目的に、会場となる幕張メッセ周辺の企業の協力を得て夏場の花壇づくりコンテストを実施しているところです。

オリンピック・パラリンピックをチャンスと捉え、生産者の所得向上につながるよう生産者団体等と協力し、積極的に取り組んでまいります。